

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（民法）		
	ゼミ担当者名	鬼塚 隆政		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民法全体を外観し、3年次以降の学習のための基礎知識を修得する。
ゼミの到達目標	民法全体について基礎知識を習得し、公務員試験、各種法律系試験等3年次以降の学習へつなげる
ゼミの概要	<p>簡単な民法の基本書を通読し民法全体の知識を修得します。</p> <p>輪読または単元毎担当者を決めての内容発表で進めます。その際、適宜、教員より質問を投げかけたり、全員でディスカッションをしたりして、正確な知識と具体的イメージを修得します。</p> <p>毎回範囲となる部分を予習し、疑問点を授業で発言してもらいます。</p> <p>本ゼミナールでは、知識確認のため適宜ミニテストを実施します。</p>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱う範囲について、各自予習し、分からない部分を講義で質問する準備をする。（1.5時間）
履修条件	民法総則の単位を取得していることが望ましい。 今年度「債権各論Ⅰ、Ⅱ」、「物権法Ⅰ、Ⅱ」の講義を受講することが望ましい。
テキスト	履修者と相談して指定します。
参考文献・資料	<p>我妻榮他「民法1総則・物権法 第4版」勁草書房</p> <p>我妻榮他「民法2債権法 第4版」勁草書房</p> <p>我妻榮他「民法3親族法・相続法 第4版」勁草書房</p>
成績評価の方法	ゼミナール内での発言内容（70%）と試験結果（30%）を基に総合的に評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	講義の時間以外いつでも可 なお、常時国家試験等センターにいます。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。特に、公務員試験、法律系資格試験等を考えている方の参加を歓迎します。</p> <p>公務員試験、各種法律系資格試験等を目指す方にとって民法は、大変重要ですが、その範囲は広大です。何を勉強しているのか分からなくならないよう、一度民法全体を外観しましょう。そして、大学の講義をより効果的に理解しましょう。</p> <p>理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育	第17回	ディスカッション 債権総論①
第2回	ディスカッション 民法総則①	第18回	ディスカッション 債権総論②
第3回	ディスカッション 民法総則②	第19回	ディスカッション 債権総論③
第4回	ディスカッション 民法総則③	第20回	ディスカッション 債権総論④
第5回	ディスカッション 民法総則④	第21回	ディスカッション 債権総論⑤
第6回	ディスカッション 民法総則⑤	第22回	ディスカッション 債権各論①
第7回	ディスカッション 民法総則⑥	第23回	ディスカッション 債権各論②
第8回	ディスカッション 物権法①	第24回	ディスカッション 債権各論③
第9回	ディスカッション 物権法②	第25回	ディスカッション 親族相続①
第10回	ディスカッション 物権法③	第26回	ディスカッション 親族相続②
第11回	ディスカッション 物権法④	第27回	ディスカッション 親族相続③
第12回	ディスカッション 担保物権法①	第28回	判例発表ディスカッション①
第13回	ディスカッション 担保物権法②	第29回	判例発表ディスカッション②
第14回	ディスカッション 担保物権法③	第30回	判例発表ディスカッション③
第15回	ディスカッション 担保物権法④	第31回	判例発表ディスカッション④
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	社会政策ゼミナールⅠ		
	ゼミ担当者名	木村 澄 (きむら きよし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「人生の目的」とは何か？ その目的をどのような方法で達成するか？
ゼミの到達目標	<p>1. 人生100年時代の「幸せを創造する生き方」を考える。          幸せを決める3つの要因とは？ ①人は幸福度のうち50%が遺伝によって設定されている。②生活環境や状況による違いは10%程度。③幸福になるための40%は日々の意図的な行動にある。何かに没頭している状態を「フロー」という。幸福な人生はフローによって創られる。</p> <p>2. 人生100年時代に「新しい働き方」を考える。          ①自分が興味をいだける分野で「高度な専門技能」を習得すること、②「人間関係の資本」を育むこと、③消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、「質の高い経験」を大切に作る働き方にシフトすること。          創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができる。          そのような新しい生き方を理解したうえで、ゼミ研究活動を進める。そして、その成果をみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とする。</p>
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得るか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察する。
授業時間外の学習	興味ある研究テーマを考え、関連する研究資料を収集し読み込む。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p><b>【研究に向けた活動(40%)、前期試験(15%)、後期試験(15%)、主体的学びの姿勢(30%)】</b>          上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目(13:00~14:30)・木曜日3時間目(13:00~14:30) ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立ちます。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。食事会(焼肉)で交流を図りましょう!

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	悪について：人間は狼か羊か	第18回	「VIA 強み診断テスト」
第3回	ネクロフィリア、ナルシズム、近親相姦的固着	第19回	セリグマンの WELL-BEING 理論：持続的幸福
第4回	人間の本性とは	第20回	①ポジティブ感情、②エンゲージメント、③意味・意義、④達成、⑤関係性
第5回	愛について：対人間的合一	第21回	チクセントミハイの FLOW 理論：生きるとは
第6回	愛する能力の特性	第22回	仕事に関する矛盾・思い違い
第7回	人間はなぜ罪を犯すのか	第23回	幸福を決める3つの要因
第8回	生来犯罪人説、アノミー理論①、社会解体理論	第24回	「オックスフォード幸福度調査」
第9回	文化葛藤理論、分化的接触理論、アノミー理論②	第25回	3ステージの人生からマルチステージの人生へ
第10回	非行サブカルチャー理論、分化的接触構造理論	第26回	時間という贈り物、無形資産の形成
第11回	非行漂流理論、ラベリング理論、ボンド理論	第27回	働き方のシフト：未来を形成する要因
第12回	幸せの公式：ずっと幸せでいるために必要なこと	第28回	①ジェネラリストから連続スペシャリストへ
第13回	幸福のサーモスタット、快樂の踏み車	第29回	②孤独な競争から協力して起こすイノベーション
第14回	お金で幸せは買えない	第30回	③大量消費から情熱を傾けられる経験へ
第15回	長続きする幸せをもたらす自発的要因	第31回	人間の幸福な未来を築くには！
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、基本的な問題点を発見する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を理解している。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。</li> <li>8 安全保障に関し、選択したテーマについて意見を述べるができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> <li>・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。</li> </ul> <p>(予習 2 時間程度、復習 1 時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生生活入門 I・II、または総合科目 I・II の単位を修得済みであること。</li> <li>② 安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学 I、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、防災学概論、現代政治論、観光社会学、のうち少なくとも 2 科目の単位を修得済みであること。</li> <li>③ 第 1 回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第 1 回ゼミナール時に配布する。）。)</li> <li>④ 履修登録にあたっては、第 1 回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 国際関係論、防衛政策、現代政治論（履修済のものを除く。）を同時履修することが望ましい。</li> <li>3 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和6年版）、外交青書（令和6年版）、田村重信ほか『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウェッジ）、徳川信治ほか『テキストブック 法と国際社会（第3版）』（法律文化社）、ヴォーン・ロウ『かんがえる国際法』（白水社）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待します。</p> <p>前期はこれまで安全保障について体系的に学んだことがない学生もいることを前提にゼミナールを進めます。後期は、各人が選定したテーマに沿ってレポートを作成し、ゼミ内でのプレゼンテーションを経て、学部内でも発表できるようにします。</p> <p>また、後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス (研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について) 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土・領海・領空	第19回	トピック・まとめ
第4回	防衛政策の基本①	第20回	学生による発表③ 討議
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	トピック・まとめ
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑤ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	学生による発表⑥ 討議
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	トピックまとめ
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護の在り方	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	国際司法裁判所	第29回	特別講義① (ゲストスピーカー)
第14回	国際平和協力活動の概要	第30回	特別講義② (ゲストスピーカー)
第15回	地域的安全保障体制の概要	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	心理学ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	瀬戸 泰		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>同じ経験をして、<b>「楽しい」と感じたり「つまらない」と感じたり、人によって感じ方が異なるのはなぜでしょうか。</b>また、幼い頃の親子関係や成育歴はどのように心に影響を及ぼすのでしょうか。このように、心理学は私達の生活と密接に結びついている<b>「心」と「行動」</b>の働きや法則性を検証していく学問です。本ゼミナールでは、心理学に関する代表的な理論や考え方を一通り学び、心理学の全体像について理解することをテーマにします。</p>
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の全体像を理解し、それらを通して自らの心や社会的な現象に対する洞察が行えること</li> <li>他者への気配りや思いやりの心と行動を育むこと</li> </ul>
ゼミの概要	<p>基本的に毎回、異なる心理学のテーマについて講義や文献講読を通じて理論的な内容を学んでいきます。また、後期は学部のゼミナール研究発表会に向けて、各自でテーマを決めて発表資料の作成を進めていく予定です。</p>
授業時間外の学習	<p>学んだことを、日常生活の中で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めてください。</p>
履修条件	<p><b><u>心理学に興味があり、ルールを守れる方を履修条件とします。「何となく楽そうだから」といった理由での履修は控えてください。</u></b>      *心理学は「占いやゲーム」のようなものではありません。「思っていたものと違う…」とにならないよう、予めご理解ください。また、心理学に興味がない(少ない)場合はゼミ参加が苦痛になると考えられますので、自身の興味関心を基準に受講を検討してください。</p>
テキスト	<p>毎回、レジュメやテキストの写しを配布予定です。</p>
参考文献・資料	<p>必要に応じて、授業中に適宜お知らせします。</p>
成績評価の方法	<p>授業平常点 60%、定期試験(発表・レポート等) 40%      ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日もしくは火曜日の 10:30 ~ 12:00      ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp</p>
成績評価基準	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>現代は「心の時代」とも言われるように、悩みやストレスをどう和らげていくか、また、ビジネスや行政に心理学をどう活かしていくかなど「心理学 × 様々な領域」に対する注目が集まっています。また、学んだ知識は自身の心のケアや対人面に活かしていけるかもしれません。身近だけれども幅広く奥深い「心理学の世界」を一緒に探求してみませんか。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション① (心理学とは、様々な心理学)	第17回	キャリア発達と就職活動について
第2回	イントロダクション② (ゼミの進め方、個別面談)	第18回	アセスメントの基本① (3つの視点)
第3回	イントロダクション③ (学びの要点、研究倫理)	第19回	アセスメントの基本② (主な精神疾患、薬物療法)
第4回	心理学の歴史	第20回	アセスメントの基本③ (発達障害)
第5回	行動主義心理学	第21回	心理療法を学ぶ① (来談者中心療法)
第6回	2つの条件付け・行動療法	第22回	心理療法を学ぶ② (傾聴、話の聴き方のワーク)
第7回	深層心理学 ① (フロイト)	第23回	心理療法を学ぶ③ (認知行動療法)
第8回	深層心理学 ② (ユング)	第24回	心理療法を学ぶ④ (家族療法、ブリーフセラピー)
第9回	深層心理学 ③ (アドラー)	第25回	研究の進め方
第10回	感覚・知覚・認知心理学	第26回	文献検索の方法
第11回	健康心理学	第27回	ゼミナール研究発表会に向けての個別研究①
第12回	パーソナリティ心理学	第28回	ゼミナール研究発表会に向けての個別研究②
第13回	発達心理学	第29回	ゼミナール研究発表会に向けての個別研究③
第14回	社会心理学	第30回	ゼミナール研究発表会に向けての個別研究④
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	表現文化ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	橋元志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	国内外の文化・文学について学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、グローバルな社会を生きるための社会人基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然や文化財の保全、文化観光、国内外の文学等の研究を行い、論述やプレゼンテーションを行うことができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述およびプレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる論説や小説を、指定された頁まで必ず読んでください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、論文等を読むことを推奨します（2時間程度）。
履修条件	① 学生生活入門ⅠⅡを履修し、単位を修得していること。また「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかを履修して単位を修得していること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナールの1回目・2回目もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は、単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、指導を受け入れること。周囲の人々には思いやりをもって接し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業時に随時、紹介していきます。 安江則子編著『世界遺産学への招待』（法律文化社 2011年）河野 靖『文化遺産の保存と国際協力』（風響社 1995年）君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。学生時代の友人は人生の宝物とも言われます。共に学びながら、素敵な思い出をたくさん作っていきましょう。</p>
------------------------------	--

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	ヨーロッパ文明の源流
第2回	世界遺産とは何か	第18回	キリスト教と世界遺産
第3回	絶景でめぐる世界遺産の旅	第19回	ルネサンスと大航海時代
第4回	世界遺産と日本の自然・文化	第20回	イギリスの歴史と文化 I
第5回	世界遺産と日本神話	第21回	イギリスの歴史と文化 II
第6回	世界遺産と仏教文化	第22回	絶対王政とフランスの文化
第7回	日本の文化財の特色と保全	第23回	芸術の都パリとフランス文学
第8回	文化観光と地域振興	第24回	研究テーマと文献講読
第9回	ヨーロッパの歴史と世界遺産	第25回	研究テーマと論述の基礎
第10回	研究テーマを見つけよう	第26回	研究発表 I (プレゼンテーション)
第11回	グループディスカッションの方法	第27回	研究発表 II (プレゼンテーション)
第12回	プレゼンテーションの基礎	第28回	研究発表 III (プレゼンテーション)
第13回	アカデミック・ライティングの基礎	第29回	個人面談
第14回	個人面談	第30回	キャリア・プランニング II
第15回	キャリア・プランニング I	第31回	総括ー研究をもっと楽しく充実させるためにー
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ビジネス・企業ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	道端忠孝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	ビジネス・企業を多方面から考察して明らかにする。特に、就職先としての企業組織の違いや企業の展開するビジネスの概要が分かるようにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社企業や、会社以外の企業の特徴などを理解できること。 将来就職する会社などの企業やビジネスの実体を理解できるようになること。
ゼミの概要	ビジネス・企業を全体的に考察し、特に、商人としての会社企業やビジネスの実体を明らかにしたい。ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として仕上げ、報告をしてもらいます。ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書及び配布資料に必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 日頃から新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	授業で適宜紹介します。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート報告 (60%)・レポート提出(40%)</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・レポート課題は原則としてポータルサイトで指示します。</li> </ul> ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00~14:30、金曜日 14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ビジネスのことや企業のことを理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	ビジネス・企業ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）、研究倫理教育	第17回	株主総会
第2回	金融業、銀行・信用金庫・信用組合はどう違う！	第18回	取締役会
第3回	貸金業や銀行などとはどう違う。秋田県信用保証協会ってどんなところ。	第19回	監査役・監査役会
第4回	保険業、生命保険と損害保険はどう違うの！給与が高いのはなぜ？	第20回	監査役会設置会社ーイオンリテール(株)ー
第5回	JA 共済や秋田県民共済は保険会社とどう違うの！	第21回	監査等委員会設置会社ー秋田・北都・荘内・山形・青森・みちのく・岩手・東北銀行など
第6回	JA やcoop は「組合」とあるが、どういう組織なの？	第22回	指名委員会等設置会社ー北都銀行・荘内銀行の親会社=フィデアホールディングス(株)や、イオン(株)
第7回	ナイスやマルダイなどのスーパーと生協 (coop) はどう違うの！	第23回	自分の選んだ会社・企業の運営は！
第8回	ホテル・旅館、国際観光ホテル・旅館はどうちがうの？なぜサービス料10%、消費税10%？	第24回	企業のSDGs の取り組み（序説）
第9回	自動車販売会社にもいろいろ；トヨタ、日産、スバル、マツダ、三菱、ダイハツ、いすゞ	第25回	SDGs と企業の社会的責任の違い（基本）
第10回	不動産会社、住宅販売会社、建設業の関係！	第26回	サステナビリティ・ガバナンス（序説）
第11回	商工会、商工会議所の実態はどうなっているの！	第27回	自分の選んだ会社のSDGs 事業
第12回	個人企業と会社の違い、会社の種類と違い	第28回	自分の選んだ会社のサステナビリティガバナンス
第13回	株式会社と合同会社の違い	第29回	レポートの作成（私の選らんだ企業）
第14回	1円株式会社って！	第30回	パワーポイントの作成①（私の選らんだ企業）
第15回	株主有限責任というが、本当！社長の連帯保証って！法人格否認って、	第31回	パワーポイントの作成②（私の選らんだ企業）
第16回	定期試験（レポート中間報告）	第32回	定期試験（レポート提出・報告）

	ゼミナール名	ゼミナール I (観光ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	湯澤 真		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	21世紀は観光の時代。「感性」を磨いて現在、未来の観光を創造する
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光が地域に及ぼす影響（メリット・デメリット）を理解できるようになる。</li> <li>・観光を自分の関係する地域（出身地や居住地）に引き付けて理解できるようになる。</li> <li>・学内でのゼミ発表会で各自発表をする。</li> </ul>
ゼミの概要	観光研究をするにあたっては基本的な手法や、調査の仕方を身に付けることが必要です。このゼミはそれらの基本を学ぶ場となります。また国内・海外の最新の観光トピックにも注目して観光の今を学び、未来の観光を考えます。
授業時間外の学習	新聞、テレビ、ネットで旅行や観光に関する記事やニュースに関心を持って接してください。そして読みっぱなしにすることなくそこから観光+αについて考えるきっかけにしてください。授業後の振り返りも忘れずに。教員だけでなく友人からのコメントや発言からも大きな気づきが得られます。
履修条件	ゼミは自分の興味関心を追及してゆく場です。単に、旅行が好き、旅が好きとの理由から受講するのではなく、観光の本質を深く学んでみたい人向けです。 ※後期に予定しているフィールドワークでの交通費は各自、自己負担となります。
テキスト	特定のテキストは使用しません。担当教員が独自の資料を作成し配布します。
参考文献・資料	竹内正人ほか編著『入門観光学』ミネルヴァ書房 2024年 大橋昭一ほか編著『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版 2014年 宮内泰介、上田正文『実践 自分で調べる技術』岩波新書 2020年 『トラベルボイス』ホームページ
成績評価の方法	定期試験(20%)、ゼミ活動への参加状況(30%)、ゼミ・学内での発表状況(50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 3時限目 (13:00~14:30) 毎週木曜日 2時限目 (10:40~12:10)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	私は 25 年間旅行会社で働いていました。観光の現場にいて感じたことは観光は動きがとても早く、ダイナミックだということです。観光の現場で起きていることに加えて、社会の動き、人々の思い、国の政策まで含めて考えることで観光の本当の理解ができます。また文献や資料を読み込むのと同じくらい、現地・現場の生の声も大切にしてください。最終目標は 12 月の学内のゼミ発表会での発表です。あと、観光のゼミですから「ワイワイ・ガヤガヤ」みんなで対話をしながらやりましょう。厳しくも楽しいゼミです

授業計画			
第1回	ガイダンス（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	観光トピック紹介（各自）夏休み中の注目事例
第2回	観光とは何か。観光の定義。	第18回	秋田市内フィールドワーク①（予定）
第3回	観光を研究するとは（テーマの設定、資料収集の方法・参考文献の集め方・調査の方法など）。	第19回	秋田市内フィールドワーク②（予定）
第4回	地域と観光	第20回	フィールドワーク振り返り（課題発見）
第5回	観光の発達史①（世界編）	第21回	発表テーマの検討①
第6回	観光の発達史②（日本編）	第22回	発表テーマの検討②
第7回	観光政策（観光立国と国際観光）	第23回	発表テーマについてのゼミ内プレゼン
第8回	観光資源論①（祭りと観光）	第24回	発表テーマについてのゼミ内プレゼン
第9回	観光資源論②（博物館・美術館と観光）	第25回	ゼミ内プレゼンを受けて方向性を確認
第10回	観光のケーススタディ①（コンテンツツーリズム）	第26回	ゼミ発表会の準備①（ゼミ内発表）
第11回	観光のケーススタディ②（フードツーリズム）	第27回	ゼミ発表会の準備②
第12回	観光のケーススタディ③（第二のふるさとづくり）	第28回	ゼミ発表会の準備③（リハーサル）
第13回	映像資料の視聴（観光に関わる映画作品）	第29回	ゼミ発表会の反省と振り返り
第14回	観光トピックに関する個人発表と討議①	第30回	後期まとめ
第15回	観光トピックに関する個人発表と討議②	第31回	年間の振り返りと次年度（ゼミⅡ）への抱負
第16回	定期試験	第32回	定期試験